

国語 第6学年 表現に着目して読み、考えたことを伝え合おう

検討会の想定問答

指摘 1: この単元で身に付けることは何か。

返し: 模型とまちに関わる描写や繰り返される表現に着目し、作品の全体像を考える。物の描写も丁寧に読み、人物の受け止め方や場面の前後と結び付けて表現の効果を考える。C(1)エの学習として、表現の効果のメモ。着目した描写、感じた印象、前後の場面との関係、作品全体への考えを記す。

指摘 2: 何をもって学習できたと判断するか。

返し: おおむね満足できる状況は、描写と場面の関係から作品の全体像を想像し、表現の効果を考えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)エの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3: 活動が楽しいだけで終わらないか。

返し: 表現の効果のメモを残す。着目した描写、感じた印象、前後の場面との関係、作品全体への考えを記す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)エに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4: 難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し: 感想を雰囲気だけで述べ、表現を示せない。象徴の意味を一つに決めつける。これについて、印象に残った表現と、その前後の行動や情景を組にする。別の平易な言い方と比べ、原文で生まれる印象を説明する。語句の置換は比較のためで、本文の改変版を配布しない。〔知識及び技能〕(1)クとC(1)エを切り離さず扱う。

指摘 5: 考えが違ったときはどう扱うか。

返し: 教師の結論を選ばせず、「模型やまちを表す言葉は、どんな印象を与えていますか。その印象は、前後の人物の様子や出来事とどう関係していますか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)エに関わる根拠を話し合う。

指摘 6: 本時の評価で態度まで決められるか。

返し: 本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7: 端末がない学級でもできるか。

返し: 表現の効果のメモは紙に記録できる。着目した描写、感じた印象、前後の場面との関係、作品全体への考えを記す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)エの評価の代わりにしない。

指摘 8: 時間が足りないとき、どこを残すか。

返し: 総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)エで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9: 模型が何の象徴かを当てる授業なのか。

返し: C(1)エの表現の効果を扱う。象徴の名称を正答として求めず、描写の言葉と作品全体の関係をどのように説明したかを確認する。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「模型やまちを表す言葉は、どんな印象を与えていますか。その印象は、前後の人物の様子や出来事とどう関係していますか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)エに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

